

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500351	事業の開始年月日	2014年10月1日	
		指定年月日	2020年9月1日	
法人名	社会福祉法人みやぎ会			
事業所名	グループホームにこトピアいわで ユニット：百百			
所在地	(〒 989-6435) 宮城県大崎市岩出山字浦小路40番地14			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年11月4日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は全居室が個室対応のため、プライバシーが守られております。また、入居者様の時間の過ごし方を大切にしております。自宅で暮らしていた時のように、居室には使い慣れた物、馴染みのある物を用意してもらうなど、環境をあまり変えないように配慮しています。皆で賑やかに過ごしたい時があれば、1人でゆっくりと過ごしたい時もあるので、その日その日の入居者様に合わせたケア、個人を尊重したケアを心掛けております。同一敷地内にある地域密着型特別養護老人ホームともコロナ禍以前は交流があり、夏祭りや敬老会等の行事は合同で行い、皆様に楽しんで頂いております。庭には畑があり、季節の野菜や花など育てており、採れたての野菜を食事やおやつで提供しております。コロナ禍であってもできるだけ楽しんでいただけるように感染対策を講じた上でドライブや地域行事への参加を進めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年11月22日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

社会福祉法人「みやぎ会」の理念は、ホスピタル精神（おもてなし）をモットーに医療・福祉・保健を通じて地域社会に貢献すること、利用者・家族に感謝される環境づくりや仕事を目指すとした。それを受けて、ホームの理念「明るく やさしく 清潔に」とし、笑顔で利用者に接し、安心感を与えるケアを心掛けている。

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

ホームは、岩出山駅に近く周囲には病院や公園、商店街があり利便性が良いところに位置した、2階建て2ユニットである。同法人の特別養護老人ホームが隣接している。社会福祉法人「みやぎ会」の名称は、八戸市三八城地区に最初の事業所を開設したことに由来している。現在は東北4県で介護事業所を運営を展開している。

【事業所の優れている点・工夫点】

隣接する特別養護老人ホームと共に、研修や身体拘束委員会、運営推進会議や8委員会を連携して行い、質の高いケアや事業運営に取り組んでいる。職員は、利用者に寄り添ったケアの充実を図るため、ロールプレイなど様々な実践を試み、学びを深めケアに活かしている。コロナ禍で様々な制限がかかる中でも利用者に喜んでもらえるよう、季節毎の行事食や郷土食を提供したり、希望の場所にドライブをしたりしている。オンライン面会や間仕切り面会等、利用者一人ひとりの生活の状況を便りて伝える等、利用者・家族の側に立った取組みを工夫している。運営推進会議では委員へ法人の運営状況を丁寧に伝え、地域と交流・連携を図るための様々な企画を立案し実施できるよう努めている。近くの高校の校外学習や職場体験を受け入れたり、職能訓練の場としてホームでの様子をオンラインで配信する等、地域貢献にも努めている。コロナ禍のため現在は開放されていないが、特別養護老人ホームには地域交流スペースが併設されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームにこトピアいわで
ユニット名	百百

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームにこトピアいわで ）「ユニット名:百百」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い、理念の意識付け、共有し実践につなげている。	ホームの理念「明るく やさしく 清潔に」は、ホールや事務室に掲示し、法人の理念と共に毎日唱和し、意識づけを図っている。研修にはロールプレイを取入れるなど工夫し、具体的な声掛けの仕方などを学び実践に繋げている。職員は笑顔で接するよう心掛け、一人ひとりに寄り添い安心感を持ってもらえるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	岩出山100縁商店街に参加し、オレンジカフェまで散歩し、健康チェック、塗り絵等行った。その後かき氷を食べ楽しい時間を過ごした。参加ができない時もオレンジカフェに入居者様の作品を展示してもらっている。	町内会に加入し、広報紙や回覧を通し地域情報を得ている。例年、年2回「岩出山100縁商店街」があり、かき氷を食べたりオレンジカフェに参加して交流している。コロナ禍で活動が制限される中で、職員が利用者の楽しみを企画する「スマイルプロジェクト委員会」を立ち上げ、利用者と一緒にミニ盆踊り夏祭りを企画した。コロナウイルス感染症拡大で実施は見送られたが、次の企画を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域の方々に向けた認知症に対する情報発信は行っていない。コロナ収束後発信に努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は対面での運営推進会議は行われておらず、書面での開催になっている。意見や要望等はいつでも受け付けている。	2022年9月の会議は、地域交流スペースで行ったが、その他は書面での開催である。市の福祉課職員、地域包括職員、町内会会長、地区代表、区長、民生委員、交番代表、事務局職員のメンバーで、2ヶ月ごとに、隣接する同法人の特別養護老人ホームと合同で開催している。事業計画や利用者の状況、トピックスとして行事や活動の紹介など、参加者が分かりやすいよう写真や集計した数値をグラフ化した資料を用い報告し、理解を得ている。	書面による運営推進会議においても、参加者が意見を出せるような仕組みを工夫し、サービス向上に繋がれるような取組を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新時や区分変更申請時、生活保護の利用等、市町村担当者と日頃からやり取りを行い、協力関係を築けている。	市職員・地域包括職員がホームの運営推進会議に参加している。市から認知症実践者研修や管理者研修などの研修案内がある。褥瘡ケアの仕方、センター方式の研修などにも実参加やオンラインで参加している。介護保険の加算や生活保護の手続きなどについて都度相談している。地震や大雨等の災害時には、高齢介護課から安否確認の連絡がある。地域包括支援センターから入居相談を受ける等、随時連携を図っている。外部評価の結果と目標達成計画を市に提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は原則として身体拘束を禁止している。玄関の施錠は防犯目的のためやむを得ず行っている。	「身体拘束の適正化等のための指針」が作成されている。2ヶ月ごとに、同法人の隣接する特別養護老人ホームと合同で、管理者・ケアマネ・看護師・施設長等が参加し、委員会を開催している。職員は「虐待の芽防止チェックリスト」を記入し自己チェックを行い、委員会の担当者が「身体拘束のラウンドチェック（観察チェック）」を用いて見直しを行っている。委員会の報告・検討事項は、ユニット会議等で周知徹底を図っている。利用者の外出傾向を把握し、外出を希望するときは、納得できる声掛けを工夫して対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や不適切ケア等について内部研修を行い虐待防止に努めている。また、管理者も業務に入り、不適切なケアや言動があった場合にはその都度指摘している。	身体拘束委員会と合わせて2ヶ月ごとに検討している。不適切なケアに繋がらないようユニット毎ロールプレイを通してより良い声掛けの仕方や対応について検討し、日常のケアに活かしている。職員の負担を軽減するため管理者や介護主任は相談しやすい関係作りを心掛け、相互に情報共有しながら、職員の悩みや要望を聞き、事業所全体で職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンラインで外部研修を受けたり、内部研修で勉強会を実施し、業務に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際は読み上げ説明を行い、必ず質問や不安な点を伺ってその都度十分な説明を行い、ご理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でオンライン面会になっているため直接要望を受ける機会は少ないが、必要物品等施設に届けていただく際や電話等で要望を伺っている。要望がある場合は職員間で共有し運営に反映させている。	家族会はないが、病院受診や必要物品を届けに来訪した際、また電話で、家族から要望や相談事を聞いている。得た情報は申し送りやユニット会議で共有している。家族からの要望で玄関に職員の写真を掲示した。利用者の体調についてや日常の様子を写真にして報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者との面談があり、意見や提案を聞く機会を設けている。また、毎月1回のユニット会議でも職員の意見を聞く機会を設けている。	年2回、管理者と個人面談を行い、個々の目標の達成状況を確認している。管理者は職員から、シフトや働き方などの要望を聞いたり相談を受けている。資格取得に対して、経費やシフト面で法人からのサポートがある。職員は、ユニット会議で検討が必要と考える議題を事前に出している。ユニット会議や研修の場で職員から出た意見を活かし、利用者と関わる時間を増やすため、記録物の効率化、洗濯の頻度の見直し等、運営改善に繋げた。職員は、ホームで設けた4つの係に分かれ、それぞれ会議を持ちながら協力し自主的に事業運営に関わっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき、職場環境の整備に努めている。法人全体で「ノー残業デー」を設定したり、有給休暇取得の推奨など働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の内部研修は動画や資料回覧の形式をとっている。新採用者研修等も動画で行っている。ユニット会議時勉強会を行い、勉強の機会を設けている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症実践者研修等の外部研修やグループ内の介護技術指導者研修、新採用者研修等同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。	隣接する同法人の特別養護老人ホームと研修や行事等を合同で行っている。また、日常の給食作りの他、災害時の備蓄の保管などで協力を得ている。職員は7つの委員会に分かれ、毎月又は2ヶ月ごとに会議を開催し、連携して運営に繋げている。近隣の同法人のグループホームとは、疑問点の相談や職員の異動などで連携している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍のため施設見学は行っていないが、本人様の要望を伺い、可能な限り対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のため施設見学は行っていないが、パンフレットや施設紹介動画などを活用しながらご家族の要望を聞き可能な限り対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で、ご本人やご家族の意向を考慮しつつ、現状を見極め、必要とされるサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを念頭に置き、職員はご本人が笑顔で過ごしていただけるように信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と情報共有することで一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会・外出の制限はあるが、ご家族が来設時、ガラス戸越しに顔を合わせられるようにする等、その都度配慮・支援を行っている。認知症カフェに参加したり、作品展示をするなどしている。	ホーム近くの内川巡りや商店街の散歩、オレンジカフェへの参加や手作り作品の出展などを行っている。家族付き添いの病院受診時に馴染みの場所をドライブしたり、外食をするなど、家族と思い思いに過ごせるよう支援している。面会は、玄関先のガラス越しで行ったり、交流ホールからタブレットを使用したオンライン面会を予約制で毎週木曜日に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の生活歴や性格、病気等考慮しながら利用者同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談を受けた際は、ご本人やご家族のフォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の思いに耳を傾け、意向の把握に努めている。	日常生活での会話の中から利用者の意向や希望を把握している。入浴時は、職員と一対一になれる時間なので、ゆっくり話を聞いている。把握した利用者の要望で、ドライブを実現させたり、縫い物などの趣味を活動に取入れた。把握が困難な利用者からは、ケア中や声掛けの時の反応や表情からくみ取り、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査でご本人やご家族に生活歴や生活環境の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方、心身状態、ADLを把握し、その人らしい暮らし方の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえ、職員とコミュニケーションを図りながら状態把握を行い、現状に即した介護計画の作成や見直しを行っている。	ユニット会議でモニタリングを行い、全職員で利用者一人ひとりの状態を確認している。6ヶ月ごと、状態の変化時にはその都度、アセスメントシート並びに介護計画を見直している。電話で家族に利用者の様子を説明し意向を聞き、介護計画を作成している。コロナ禍なので、介護計画を郵送し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトへの入力、ユニット会議でのケアの検討から状態変化等情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスが前提ではあるが、その上でご本人やご家族のニーズにできる限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、感染状況を見ながら訪問理美容の利用をしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を大切にしている。その上で職員やご家族の協力のもと、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と話し合い、入居前からのかかりつけ医をできるだけ変更せずに家族付き添いで受診している。必要に応じて協力医療機関に変更している利用者もいる。訪問看護ステーションとホームが契約し、週1回看護師が来訪し健康管理をしている。訪問看護ステーションとは、24時間のオンコール体制で、緊急時の対応支援もある。家族付き添いの受診の際は、利用者の状態や日常の食事量、バイタルチェックを記載した書面を渡し、受診後の結果を聞き取り情報共有している。入院した場合は病院内の地域連携室と連携を図り、週1回利用者の状態を確認している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との情報共有を行い、適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報共有を行い、安心して治療を受けていただけるように努めている。また、入院中の情報共有を行い、退院後もスムーズに支援できるように医療機関と調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は看取りを行っていないことは申し込みの時点で説明し、ご理解頂いている。重度化した場合はご家族、かかりつけ医、訪問看護師等と相談し、医療機関への転院など連携して支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化対応・終末期ケアの対応方針」を説明し、看取りは行っていないことを伝え、家族の同意を得ている。入居時に併設する特別養護老人ホームの申し込みも行い、重度化した場合に連携できることも一緒に説明している。かかりつけ医と連携し、重度化した場合は家族の意向を確認しながら、他の施設への入所や入院支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、指針等は整備してあるが、定期的な実践的な訓練は行っていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間帯想定での避難訓練を年2回実施している。	火災・地震・水害・原子力災害マニュアルが整備されている。年2回、避難訓練を行い、内1回は夜間想定で実施している。例年、1回は消防署立会いで行い、地域住民の参加もあったが、コロナ禍で職員間での訓練にとどめている。消火器等は年2回業者が点検している。非常食は、「ローリングストック」方式で3日分、隣接の特別養護老人ホームに保管しているが、ホーム内での保管を検討中である。感染症対策委員会を設置し感染症まん延防止に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室する際はノックや声掛けをしたり、入浴や排泄の際にはプライバシーに配慮した対応を行っている。	年1回、プライバシー保護の研修を行い、一人ひとりを尊重したケアに努めている。日常的に利用者に確認を取ってから支援を行うことを心掛けている。居室に入室する際もノックや声掛けし確認してから入っている。排泄介助はさりげなく利用者に合わせた方法で支援し、居室やトイレに誘導している。入浴時もタオルをかけながらケアをするなど、羞恥心に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物や入浴時の衣類の選択等自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて入浴、食事、離床時間等と考慮し希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択等ご本人の意思を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行うが、後片付けや食器拭きなどを利用者様に手伝ってもらうこともある。誕生会等の行事の際は手作りおやつを提供している。	法人の管理栄養士が献立を作成し、特別養護老人ホームの給食室で調理して配達される。ホームでは、ご飯とみそ汁を作り、利用者の状態に合わせて塩分制限に対応したり、刻み食やとろみ食にして提供している。毎月、敬老の日などの行事食や『はらこめし』など季節の郷土食が盛り込まれ、生ものも提供している。誕生日には、利用者の好みを聞き、ケーキなど手作りのおやつを楽しんでいる。利用者は、下膳やタオルたたみ、茶わんふきなど、できることを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスについては施設の管理栄養士が対応しており、相談やアドバイス頂いている。水分補給は1日1500～1800mlを目安に摂ることができるように進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きを行うことができる方には声掛けし、できない方に対してはブラッシング等一部介助行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しタイミングに合わせて声掛けをしたり、日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を基に、タイミングに合わせて声掛けやトイレ誘導を行っている。夜間は、状態に合わせておむつやパットを使用したり、ナースコールや人感センサーを利用している。便秘対策として、水分量に注意したり、乳製品を毎日取るなどし、状態に応じ処方された下剤などで対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便を促せるように水分補給に努めている。また、必要に応じて服薬調整を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2回の入浴を原則としている。入浴時間や体調に配慮し、声掛けの工夫をしながら楽しんで入浴できるように支援している。	週2回、午後の入浴を基本としている。入浴拒否の場合でも時間帯や介助者、声掛けの仕方を工夫し、清潔保持に努めている。お湯はかけ流しで足し湯にし、冬は、柚子湯やヒノキ湯などの入浴剤などで入浴を楽しめるようにしている。入浴中は、羞恥心に配慮して介助し、話題を工夫しリラックスできるよう努めている。その日の状態に合わせて、清拭や足浴に変更し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に合わせた生活習慣や体調等を考慮して休息したり、安心して眠れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の内服状況の確認ができるように一覧にし、服薬状況の確認と症状の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や残存機能を活かし、役割や楽しみが持てるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は原則禁止となっているが、ドライブや散歩に出かけることもある。	コロナ禍で外出を自粛しているが、利用者の希望を聞き、化女沼や城山の花見、鳴子の紅葉見物など、近隣をドライブして楽しんでいる。季節毎天気の良い時は、内川周辺や商店街を散歩し気分転換を図っている。コロナ禍前は家族付き添いでの通院時にドライブを楽しんだり、お弁当を食べたり、家族との一緒の時間が持てるよう支援していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では入所の際、現金の所持や管理をお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話や手紙のやり取りできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有空間には季節に合わせた装飾をし季節感を感じられるようにしている。明るさや温度・湿度は利用者の意見を聞きながら職員が管理している。	明るく清潔な共用空間で、座席配置も工夫されている。壁には利用者と職員と一緒に作った作品や掲示物が貼られている。職員の手づくりの日めくりカレンダーで毎日、日付を確認している。テレビ・カラオケが設置され、利用者の楽しみとなっている。温・湿度はユニット職員が管理し、定期的に換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールでは仲の良い利用者様同士を隣同士の席にしたり、1人になりたい時は居室で過ごしたり、仲の良い利用者様と居室で過ごされることもある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやぬいぐるみ等使い慣れた物や好みの物を持参していただいたり、工作等自分で作ったものを飾ったり、居心地の良く過ごせるように工夫している。	ベッド、整理ダンス、洗面台、エアコンが設置されている。エアコンの吹き出し口や窓の位置に合わせ、安全面や利用者一人ひとりの使いやすさを考慮し、居心地良く過ごせるように努めている。利用者は筆筒やテレビなど使い慣れたものを持ち込み、希望を聞きながら動線に配慮し配置している。壁面には、誕生日や敬老の日のお祝いの写真やメッセージカード、職員と一緒に手作りした作品等が飾られ、楽しい思い出を振り返ることができる。温・湿度は利用者に合わせて職員が管理している。清掃は職員が定期的に行い、衣替えなどは担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除やリネン交換、下膳等できることを活かすように努めている。居室やトイレが分からなくなる利用者様に対しては張り紙やきっかけで思い出せるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500351	事業の開始年月日	2014年10月1日	
		指定年月日	2020年9月1日	
法人名	社会福祉法人みやぎ会			
事業所名	グループホームにこトピアいわで ユニット：咲良			
所在地	(〒 989-6435) 宮城県大崎市岩出山字浦小路40番地14			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年11月4日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は全居室が個室対応のため、プライバシーが守られております。また、入居者の時間の過ごし方を大切にしております。自宅で暮らしていた時のように、居室には使い慣れた物、馴染みのある物を用意してもらうなど、環境をあまり変えないように配慮しています。皆で賑やかに過ごしたい時もあれば、1人でゆっくりと過ごしたい時もあるので、その日その日の入居者様に合わせたケア、個人を尊重したケアを心掛けております。同一敷地内にある地域密着型特別養護老人ホームともコロナ禍以前は交流があり、夏祭りや敬老会等の行事は合同で行い、皆様に楽しんで頂いております。庭には畑があり、季節の野菜や花など育てており、採れたての野菜を食事やおやつで提供しております。コロナ禍であってもできるだけ楽しんでいただけるように感染対策を講じた上でドライブや地域行事への参加を進めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年11月22日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

社会福祉法人「みやぎ会」の理念は、ホスピタル精神（おもてなし）をモットーに医療・福祉・保健を通じて地域社会に貢献すること、利用者・家族に感謝される環境づくりや仕事を目指すとした。それを受けて、ホームの理念「明るく やさしく 清潔に」とし、笑顔で利用者に接し、安心感を与えるケアを心掛けている。

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

ホームは、岩出山駅に近く周囲には病院や公園、商店街があり利便性が良いところに位置した、2階建て2ユニットである。同法人の特別養護老人ホームが隣接している。社会福祉法人「みやぎ会」の名称は、八戸市三八城地区に最初の事業所を開設したことに由来している。現在は東北4県で介護事業所を運営を展開している。

【事業所の優れている点・工夫点】

隣接する特別養護老人ホームと共に、研修や身体拘束委員会、運営推進会議や8委員会を連携して行い、質の高いケアや事業運営に取り組んでいる。職員は、利用者に寄り添ったケアの充実を図るため、ロールプレイなど様々な実践を試み、学びを深めケアに活かしている。コロナ禍で様々な制限がかかる中でも利用者に喜んでもらえるよう、季節毎の行事食や郷土食を提供したり、希望の場所にドライブをしたりしている。オンライン面会や間仕切り面会等、利用者一人ひとりの生活の状況を便り伝える等、利用者・家族の側に立った取組みを工夫している。運営推進会議では委員へ法人の運営状況を丁寧に伝え、地域と交流・連携を図るための様々な企画を立案し実施できるよう努めている。近くの高校の校外学習や職場体験を受け入れたり、職能訓練の場としてホームでの様子をオンラインで配信する等、地域貢献にも努めている。コロナ禍のため現在は開放されていないが、特別養護老人ホームには地域交流スペースが併設されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームにこトピアいわで
ユニット名	咲良

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームにこトピアいわで ）「ユニット名:咲良」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い、理念の意識付け、共有し実践につなげている。	ホームの理念「明るく やさしく 清潔に」は、ホールや事務室に掲示し、法人の理念と共に毎日唱和し、意識づけを図っている。研修にはロールプレイを取入れるなど工夫し、具体的な声掛けの仕方などを学び実践に繋げている。職員は笑顔で接するよう心掛け、一人ひとりに寄り添い安心感を持ってもらえるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	岩出山100縁商店街に参加し、オレンジカフェまで散歩し、健康チェック、塗り絵等行った。その後かき氷を食べ楽しい時間を過ごした。参加ができない時もオレンジカフェに入居者様の作品を展示してもらっている。	町内会に加入し、広報紙や回覧を通し地域情報を得ている。例年、年2回「岩出山100縁商店街」があり、かき氷を食べたりオレンジカフェに参加して交流している。コロナ禍で活動が制限される中で、職員が利用者の楽しみを企画する「スマイルプロジェクト委員会」を立ち上げ、利用者と一緒にミニ盆踊り夏祭りを企画した。コロナウイルス感染症拡大で実施は見送られたが、次の企画を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため地域の方々に向けた認知症に対する情報発信は行っていない。コロナ収束後発信に努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は対面での運営推進会議は行われておらず、書面での開催になっている。意見や要望等はいつでも受け付けている。	2022年9月の会議は、地域交流スペースで行ったが、その他は書面での開催である。市の福祉課職員、地域包括職員、町内会会長、地区代表、区長、民生委員、交番代表、事務局職員のメンバーで、2ヶ月ごとに、隣接する同法人の特別養護老人ホームと合同で開催している。事業計画や利用者の状況、トピックスとして行事や活動の紹介など、参加者が分かりやすいよう写真や集計した数値をグラフ化した資料を用い報告し、理解を得ている。	書面による運営推進会議においても、参加者が意見を出せるような仕組みを工夫し、サービス向上に繋がれるような取組を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新時や区分変更申請時、生活保護の利用等、市町村担当者と日頃からやり取りを行い、協力関係を築けている。	市職員・地域包括職員がホームの運営推進会議に参加している。市から認知症実践者研修や管理者研修などの研修案内がある。褥瘡ケアの仕方、センター方式の研修などにも実参加やオンラインで参加している。介護保険の加算や生活保護の手続きなどについて都度相談している。地震や大雨等の災害時には、高齢介護課から安否確認の連絡がある。地域包括支援センターから入居相談を受ける等、随時連携を図っている。外部評価の結果と目標達成計画を市に提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は原則として身体拘束を禁止している。玄関の施錠は防犯目的のためやむを得ず行っている。	「身体拘束の適正化等のための指針」が作成されている。2ヶ月ごとに、同法人の隣接する特別養護老人ホームと合同で、管理者・ケアマネ・看護師・施設長等が参加し、委員会を開催している。職員は「虐待の芽防止チェックリスト」を記入し自己チェックを行い、委員会の担当者が「身体拘束のラウンドチェック（観察チェック）」を用いて見直しを行っている。委員会の報告・検討事項は、ユニット会議等で周知徹底を図っている。利用者の外出傾向を把握し、外出を希望するときは、納得できる声掛けを工夫して対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や不適切ケア等について内部研修を行い虐待防止に努めている。また、管理者も業務に入り、不適切なケアや言動があった場合にはその都度指摘している。	身体拘束委員会と合わせて2ヶ月ごとに検討している。不適切なケアに繋がらないようユニット毎ロールプレイを通してより良い声掛けの仕方や対応について検討し、日常のケアに活かしている。職員の負担を軽減するため管理者や介護主任は相談しやすい関係作りを心掛け、相互に情報共有しながら、職員の悩みや要望を聞き、事業所全体で職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンラインで外部研修を受けたり、内部研修で勉強会を実施し、業務に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際は読み上げ説明を行い、必ず質問や不安な点を伺ってその都度十分な説明を行い、ご理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でオンライン面会になっているため直接要望を受ける機会は少ないが、必要物品等施設に届けていただく際や電話等で要望を伺っている。要望がある場合は職員間で共有し運営に反映させている。	家族会はないが、病院受診や必要物品を届けに来訪した際、また電話で、家族から要望や相談事を聞いている。得た情報は申し送りやユニット会議で共有している。家族からの要望で玄関に職員の写真を掲示した。利用者の体調についてや日常の様子を写真にして報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者との面談があり、意見や提案を聞く機会を設けている。また、毎月1回のユニット会議でも職員の意見を聞く機会を設けている。	年2回、管理者と個人面談を行い、個々の目標の達成状況を確認している。管理者は職員から、シフトや働き方などの要望を聞いたり相談を受けている。資格取得に対して、経費やシフト面で法人からのサポートがある。職員は、ユニット会議で検討が必要と考える議題を事前に出している。ユニット会議や研修の場で職員から出た意見を活かし、利用者と関わる時間を増やすため、記録物の効率化、洗濯の頻度の見直し等、運営改善に繋がった。職員は、ホームで設けた4つの係に分かれ、それぞれ会議を持ちながら協力し自主的に事業運営に関わっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき、職場環境の整備に努めている。法人全体で「ノー残業デー」を設定したり、有給休暇取得の推奨など働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の内部研修は動画や資料回覧の形式をとっている。新採用者研修等も動画で行っている。ユニット会議時勉強会を行い、勉強の機会を設けている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症実践者研修等の外部研修やグループ内の介護技術指導者研修、新採用者研修等同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。	隣接する同法人の特別養護老人ホームと研修や行事等を合同で行っている。また、日常の給食作りの他、災害時の備蓄の保管などで協力を得ている。職員は7つの委員会に分かれ、毎月又は2ヶ月ごとに会議を開催し、連携して運営に繋げている。近隣の同法人のグループホームとは、疑問点の相談や職員の異動などで連携している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍のため施設見学は行っていないが、本人様の要望を伺い、可能な限り対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のため施設見学は行っていないが、パンフレットや施設紹介動画などを活用しながらご家族の要望を聞き可能な限り対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で、ご本人やご家族の意向を考慮しつつ、現状を見極め、必要とされるサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であることを念頭に置き、職員はご本人が笑顔で過ごしていただけるように信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と情報共有することで一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会・外出の制限はあるが、ご家族が来設時、ガラス戸越しに顔を合わせられるようにする等、その都度配慮・支援を行っている。認知症カフェに参加したり、作品展示をするなどしている。	ホーム近くの内川巡りや商店街の散歩、オレンジカフェへの参加や手作り作品の出展などを行っている。家族付き添いの病院受診時に馴染みの場所をドライブしたり、外食をするなど、家族と思い思いに過ごせるよう支援している。面会は、玄関先のガラス越しで行ったり、交流ホールからタブレットを使用したオンライン面会を予約制で毎週木曜日に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の生活歴や性格、病気等考慮しながら利用者同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談を受けた際は、ご本人やご家族のフォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人1人の想いに耳を傾け、意向の把握に努めている。	日常生活での会話の中から利用者の意向や希望を把握している。入浴時は、職員と一対一になれる時間なので、ゆっくり話を聞いている。把握した利用者の要望で、ドライブを実現させたり、縫い物などの趣味を活動に取入れた。把握が困難な利用者からは、ケア中や声掛けの時の反応や表情からくみ取り、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査でご本人やご家族に生活歴や生活環境の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方、心身状態、ADLを把握し、その人らしい暮らし方の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえ、職員とコミュニケーションを図りながら状態把握を行い、現状に即した介護計画の作成や見直しを行っている。	ユニット会議でモニタリングを行い、全職員で利用者一人ひとりの状態を確認している。6ヶ月ごと、状態の変化時にはその都度、アセスメントシート並びに介護計画を見直している。電話で家族に利用者の様子を説明し意向を聞き、介護計画を作成している。コロナ禍なので、介護計画を郵送し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトへの入力、ユニット会議でのケアの検討から状態変化等情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスが前提ではあるが、その上でご本人やご家族のニーズにできる限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、感染状況を見ながら訪問理美容の利用をしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を大切にしている。その上で職員やご家族の協力のもと、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と話し合い、入居前からのかかりつけ医をできるだけ変更せずに家族付き添いで受診している。必要に応じて協力医療機関に変更している利用者もいる。訪問看護ステーションとホームが契約し、週1回看護師が来訪し健康管理をしている。訪問看護ステーションとは、24時間のオンコール体制で、緊急時の対応支援もある。家族付き添いの受診の際は、利用者の状態や日常の食事量、バイタルチェックを記載した書面を渡し、受診後の結果を聞き取り情報共有している。入院した場合は病院内の地域連携室と連携を図り、週1回利用者の状態を確認している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との情報共有を行い、適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報共有を行い、安心して治療を受けていただけるように努めている。また、入院中の情報共有を行い、退院後もスムーズに支援できるように医療機関と調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設は看取りを行っていないことは申し込みの時点で説明し、ご理解頂いている。重度化した場合はご家族、かかりつけ医、訪問看護師等と相談し、医療機関への転院など連携して支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化対応・終末期ケアの対応方針」を説明し、看取りは行っていないことを伝え、家族の同意を得ている。入居時に併設する特別養護老人ホームの申し込みも行い、重度化した場合に連携できることも一緒に説明している。かかりつけ医と連携し、重度化した場合は家族の意向を確認しながら、他の施設への入所や入院支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、指針等は整備してあるが、定期的実践的な訓練は行っていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間帯想定避難訓練を年2回実施している。	火災・地震・水害・原子力災害マニュアルが整備されている。年2回、避難訓練を行い、内1回は夜間想定で実施している。例年、1回は消防署立会いで行い、地域住民の参加もあったが、コロナ禍で職員間での訓練にとどめている。消火器等は年2回業者が点検している。非常食は、「ローリングストック」方式で3日分、隣接の特別養護老人ホームに保管しているが、ホーム内での保管を検討中である。感染症対策委員会を設置し感染症まん延防止に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室する際はノックや声掛けをしたり、入浴や排泄の際にはプライバシーに配慮した対応を行っている。	年1回、プライバシー保護の研修を行い、一人ひとりを尊重したケアに努めている。日常的に利用者に確認を取ってから支援を行うことを心掛けている。居室に入室する際もノックや声掛けし確認してから入っている。排泄介助はさりげなく利用者に合わせて方法で支援し、居室やトイレに誘導している。入浴時もタオルをかけながらケアをするなど、羞恥心に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物や入浴時の衣類の選択等自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて入浴、食事、離床時間等と考慮し希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択等ご本人の意思を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行うが、後片付けや食器拭きなどを利用者様に手伝ってもらうこともある。誕生会等の行事の際は手作りおやつを提供している。	法人の管理栄養士が献立を作成し、特別養護老人ホームの給食室で調理して配達される。ホームでは、ご飯とみそ汁を作り、利用者の状態に合わせて塩分制限に対応したり、刻み食やとろみ食にして提供している。毎月、敬老の日などの行事食や『はらこめし』など季節の郷土食が盛り込まれ、生ものも提供している。誕生日には、利用者の好みを聞き、ケーキなど手作りのおやつを楽しんでいる。利用者は、下膳やタオルたたみ、茶わんふきなど、できることを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスについては施設の管理栄養士が対応しており、相談やアドバイス頂いている。水分補給は1日1500～1800mlを目安に摂ることができるように進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きを行うことができる方には声掛けし、できない方に対してはブラッシング等一部介助行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しタイミングに合わせて声掛けをしたり、日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を基に、タイミングに合わせて声掛けやトイレ誘導を行っている。夜間は、状態に合わせておむつやパットを使用したり、ナースコールや人感センサーを利用している。便秘対策として、水分量に注意したり、乳製品を毎日取るなどし、状態に応じ処方された下剤などで対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便を促せるように水分補給に努めている。また、必要に応じて服薬調整を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に2回の入浴を原則としている。入浴時間や体調に配慮し、声掛けの工夫をしながら楽しんで入浴できるように支援している。	週2回、午後の入浴を基本としている。入浴拒否の場合でも時間帯や介助者、声掛けの仕方を工夫し、清潔保持に努めている。お湯はかけ流しで足し湯にし、冬は、柚子湯やヒノキ湯などの入浴剤などで入浴を楽しめるようにしている。入浴中は、羞恥心に配慮して介助し、話題を工夫しリラックスできるよう努めている。その日の状態に合わせ、清拭や足浴に変更し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に合わせた生活習慣や体調等を考慮して休息したり、安心して眠れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の内服状況の確認ができるように一覧にし、服薬状況の確認と症状の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や残存機能を活かし、役割や楽しみが持てるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は原則禁止となっているが、ドライブや散歩に出かけることもある。	コロナ禍で外出を自粛しているが、利用者の希望を聞き、化女沼や城山の花見、鳴子の紅葉見物など、近隣をドライブして楽しんでいる。季節毎天気の良い時は、内川周辺や商店街を散歩し気分転換を図っている。コロナ禍前は家族付き添いでの通院時にドライブを楽しんだり、お弁当を食べたり、家族との一緒の時間が持てるよう支援していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では入所の際、現金の所持や管理をお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話や手紙のやり取りできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等の共有空間には季節に合わせた装飾をし季節感を感じられるようにしている。明るさや温度・湿度は利用者の意見を聞きながら職員が管理している。	明るく清潔な共用空間で、座席配置も工夫されている。壁には利用者と職員と一緒に作った作品や掲示物が貼られている。職員の手づくりの日めくりカレンダーで毎日、日付を確認している。テレビ・カラオケが設置され、利用者の楽しみとなっている。温・湿度はユニット職員が管理し、定期的に換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールでは仲の良い利用者様同士を隣同士の席にしたり、1人になりたい時は居室で過ごしたり、仲の良い利用者様と居室で過ごされることもある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやぬいぐるみ等使い慣れた物や好みの物を持参していただいたり、工作等自分で作ったものを飾ったり、居心地の良く過ごせるように工夫している。	ベッド、整理ダンス、洗面台、エアコンが設置されている。エアコンの吹き出し口や窓の位置に合わせ、安全面や利用者一人ひとりの使いやすさを考慮し、居心地良く過ごせるように努めている。利用者は筆筒やテレビなど使い慣れたものを持ち込み、希望を聞きながら動線に配慮し配置している。壁面には、誕生日や敬老の日のお祝いの写真やメッセージカード、職員と一緒に手作りした作品等が飾られ、楽しい思い出を振り返ることができる。温・湿度は利用者に合わせて職員が管理している。清掃は職員が定期的に行い、衣替えなどは担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除やリネン交換、下膳等できることを活かすように努めている。居室やトイレが分からなくなる利用者様に対しては張り紙やきっかけで思い出せるよう支援している。		